

- 発行日 平成6年5月18日
- 発行 経鷲会
千代田区紀尾井町7-1
上智ソフィア会内
- 発行責任者 成川善雄 (34経経)
- 編集 広報委員会
- 印刷 株式会社相川書房

ごあいさつ

経鷲会会長

伍堂光雄



経鷲会会員の皆様におかれましてはお元氣にお過ごしのことと存じます。我が母校上智大学も昨年創立80周年を迎え、又経鷲会も、はや5年が過ぎその間11月の総会並びに記念行事、8月のオールソフィアゴルフの集い、5月のオールソフィアンの集いにおける名刺交換会やホームカミングパーティー等を開催しかなりのソフィアンの参加のもとに継続的に開催出来ましたことは皆様のご協力の賜物と深く感謝申し上げます。私共役員一同設立当初の主旨に沿うべく経鷲会の発展に微力乍ら鋭意努力致しておりますがここ1、2年をみますと総会等への出席者も年々減少傾向がみられます。又経鷲会運営の主な資金源であります会報「エコノミアン」発行費の納入につきましても年々少なくなっており、之を何とか回収率を高めるべく更に努力致す所存でございます。会員各位におかれましても事情ご賢察の上総会への積極的参加と共に会報発行費の納入にご協力賜りたくお願い申し上げます。

経鷲会総会について

今年の総会は11月12日(土)に開催致します。今回の記念行事はアジアの留学生によるパネルディスカッションを企画しております。テーマは「アジアの中の日本」(仮称)ということで討論をしてもらうこととしており

ます。昨年も卒業生によるパネルディスカッションを開催したところ大変好評でした。今年アジアからの留学生を中心とした企画ということで更に意義のある討論会となると期待致しておりますのでふるってご参加下さい。

オールソフィアゴルフ大会

恒例となりました第4回オールソフィアゴルフ大会を8月24日(水)高麗川CCで開催致します。この大会の趣旨はゴルフを通じて卒業生・教職員及びご家族の親睦を図ることを目的としており、経鷲会会員に限定しておりませんので広くソフィア会のOB並びにご家族の参加を歓迎致します。

創立80周年上智学院建設整備募金について

昨年9月より5年間かけて個人の募金目標6億円の内卒業生(ソフィア会会員)による募金額2億円を目標としており1人1口1万円以上、卒業10年以上の方には2口以上ということソフィア会が中心となり呼び掛けを行っております。何卒母校の益々の発展のためご協力をお願い申し上げます。

経鷲会の財政状態について

経鷲会の運営は主に会員からの会報費(会報代年間1,000円 3年間一括徴収)によって賄われておりその会報費の納入状況(94年3月末現在)は総数約8,160人の内納入者は1,100人と一割強でございます。当面これを2倍までもっていくべく役員一同努力致しておりますが未納の方のご協力を是非共お願い申し上げます。

以上、近況及び今後のスケジュール等ご報告申し上げます。今後共経鷲会の健全な発展のため会員各位の益々のご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

最後になりましたが11月12日の総会でお待ち致しております。

バブル後の日本経済の見通し

—我が業界からの展望—

司 会	浜 田 寿 一	(上智大学 経済学部 経済学科長)
パネラー	飯 芝 正 美	(三菱銀行 青葉台支店長：S48経済卒)
	ダン・ハリス	(リーチインターナショナル：S48国際学部卒)
	三 木 眞 弘	(日本テキサス・インスツルメツ広報本部日本アジア太平洋本部長：S46経済卒)
	福 田 順 子	(流通経済研究所 研究企画部長：S43経済卒)
	和 泉 法 夫	(日本ダンデムコンピュータ 常務取締役 営業統括本部長：S45理工学部機械会学科、S47社会学部卒)

<問題提起>

1973年の第1次石油ショックに伴う不況、85年のプラザ合意後の円高不況を超える不況に現在日本はみまわれている。企業内失業者は一説には100万人を超えるといわれ、余剰人員整理、ひいては日本型経営の見直しが急務となっている。企業業績の方に目を転じて、①経常収支黒字に対する国際批判の高まりにも表れるように、これまでの生産性向上、輸出競争力強化による業績向上を望めないこと、②流通業界においては、小売り売上高の長期低迷、③円高に伴う輸出産業の打撃等、解決困難な問題が多い。本パネルディスカッションでは、各業界の直面する問題を浮き彫りにすることにより、今後の日本の長期展望を市場開放、生活の質の向上といった要素を織り込みながら検討してみたい。

<パネラーからの各業界の現状報告>

—飯芝 現在の日本経済の現状、金融機関の現状について

- 現在、日本の経済循環を阻害している要因として3つの側面をあげることができ。
 - ① 資本利益率の低下、損益分岐点の上昇、円高のデフレ効果により企業の収益構造が悪化していること。
 - ② 企業者マインドの萎縮
 - ③ 家計のバランスシートの調整、雇用不安

この3つが過剰設備・過剰雇用→バランスシートの肥大化・固定比率の上昇→雇用調整→民需の不振という形で循環し、現在の状況が生み出されている。

- 局面打開のため財政政策に頼るところが大きいが、仮に大型所得減税が実施されないような場合は、円高の影響もありこの循環によるマイナス効果はより増幅し、企業の雇用過剰感はますます強まってくると考えられる。非製造業も製造業の不振を補える水準には達していない。
- 消費者マインドの活用はかなり時間がかかり、調整には2年以上かかる見通し。
- 金融機関の現状は、内部蓄積の減少、不良資産の増大により戦後最悪の状況に達している。(93年9月末の都銀・信託・長信銀の不良債権は14兆円、それ以外に届け出基準に達しないものが10兆あるといわれる。都銀10行の業務純益は前年同月比12%減)
- 宮崎義一氏は著書『複合不況』の中で、金融機関の経営環境の悪化により資金が消費・投資に回らない点を不況の要因と指摘しており、有効需要の減少から問題は信用逼迫(クレジットクランチ)に移っているという。
- 銀行の現在のリストラの中のひとつに資産のリストラがあり、貸出面で不良貸出を落とし、優良な貸出案件を増やそうとしているが、現在の資金需要は良質な

ものが少ない。

一ハリス 証券会社の現状について

- 証券会社はバブル期の終焉で「天国から地獄に落ちた」。日経平均の大幅下落はいつ回復するか見通しのつかない状況。
- 外資系証券会社と日本の証券会社の業績を比較すると日本の証券会社の業績落ち込みが大きい。これは両者の売上・利益構造に大きな差があることが指摘でき、日本の証券会社がその収益を株の売買委託手数料に依存していることに比べ、外資系証券会社は自己ディーリング、アービトラージ(裁定取引)、引受業務の比率が高く、株の相場変動による収益面への影響が少ない。
- 人員削減、スペースの削減等に1～2年前から取り組んでいるが、完了までにはまだ1～2年かかる見通しである。
- 日本の証券会社数は経済のサイズに比べて多すぎる。今後手数料面の自由化が進むと小証券会社の存在は大きな問題。業界再編成の問題も出てこよう。
- バブル期の反省としては、客サイドの問題もある。財テクのメンタリティから企業が脱皮し、合理的な資金使用に努めなければならない。

一三木 日本及び世界の半導体業界

1960年代日本政府の保護下でエレクトロ産業の育成が始まったが、1982～3年には低利な資本コストの下で設備投資の異常な拡張により、大量生産時代に入、日本の半導体市場は世界最大となった。

しかし外資系の半導体メーカーの日本市場でのシェアは歴史的にみて異常に低く、その理由としては①Q C D S (質、価格、供給、サービス)面で日本メーカーにおとっていたのも事実だが、米国での②資本コストが高いため米国メーカーは設備投資に資金を向けられず、シェア向上に至らなかった。日米半導体協定が出来たことにより大量生産指向、マーケットシェア指向の日

本の半導体メーカーは影響を受け、リストラの必要が高まった。

エレクトロニクスメーカーの今後の成すべき指針は、「協調しながら、競争しながら、互いにシェアを拡大し、またその競争の中から新たなチップを開発し最終ユーザーに供給していくこと」と考えている。

一福田 流通業界の現状

日本の小売店の数は昭和57年より一貫して減少の方向を辿っている。昭和57～60年で小売店数は約9万4,000店減少した。平成3年調査でもその傾向は続いている。

減少している店舗の規模としては、従業員数の少ない店が減少しており従来の小規模零細性に変化が見られる。特に商店街が大きな打撃を受け苦境に立たされている。

しかしバブル崩壊後は日本の流通業をリードしてきたデパート・スーパー等の大店舗も売上高の減少に見舞われており、結果として規模の大小に関わらず苦境に立たされているのが現状である。

その中で元気な業態としてはコンビニエンス、通信販売、ディスカウントストア等が挙げられ、これらの業態に共通していえることは、消費者ニーズに合っていること、システム化が進んでいること等がある。

一和泉 情報産業の現状

コンピュータ業界は過去一貫して右肩上がりの成長を続け、成長しないことはないといわれてきたが現在、3重苦に見舞われている。

- ① 経済不況の影響。
- ② I B Mを中心に動いてきたコンピュータ業界だが、I B M自体がリストラに見舞われリーダー不在、スタンダード不在の時代に入り、業界は群雄割拠の様相を呈していること。
- ③ テクノロジーの急激な進展により「ダウンサイジング(小型化、低価格化)」が進み、高収益体質の下、人材を抱えながらの労働集約的企業体質が成り立たな

くなってきたこと。

米企業は2-3年前から大リストラを行っており、レイオフにより万単位の人を削減した結果脱却しつつある。日本では2-3年のタイムラグが効いてきており内容が悪い。近い将来、日本的経済の根幹を揺るがす大リストラが必要になると思われる。高収益体質で抱えた人員を保つと会社がつぶれるということになる。現在一番のあおりをくっているのがソフト業界。

ただし、一方でリーダー不在という状況であるので、ベンチャーが出てくる可能性のある業界という側面もある。

〈主要な質疑応答・ディスカッション〉

①企業のリストラに関して

- 金融機関については、資産面のリストラに加え比効率業務の削減、適正な人員への調整等の雇用面のリストラも進行中である。バブル期に膨れ上がった人員の配分が大きな問題である。
- コンピューター業界では雇用面のリストラとして既に年俸制の導入、早期退職制度の採り入れ等の動きがあるが、過去の延長線上のリストラでは企業側がもう耐えられない状況になっており、米企業のように強引な雇用カット等も出てくるかもしれない。年配者や実力のない人間は業界を去らなければならないかもしれない。
- 流通業界では消費者の購買動向により業態別の浮き沈みがあり、現在元気のあるディスカウントストア等は①ローコストの徹底的な追求、②消費者を起点とした情報展開、③無在庫経営 等の特徴を持っている。

②短期的雇用調整と長期的若年労働力不足の融合に関して

- 経済全体で考えれば雇用面の調整はニュービジネス分野で吸収していく方向。
- 若年労働力の不足は国際化しており企業は安価で有能な労働力のある場所で事業を行う方向で進んでいる。国内では人

的資源の再配備に努めるべく、トレーニングインフラの整備等進めていく必要がある。また企業内失業への助成金等も検討が必要と思われる。

- 流通業においては良い資質を持った人、より良いサービスを提供できる人は高齢でも採りたいというところもある。

③数値目標の設定に関して

- 半導体業界を見ると、世界最大の半導体市場である日本において外資系半導体メーカーのシェアが数%というのはおかしい。ある程度のゴールの設定は必要。目標を設定するようになって戦略提携、協調してより良い製品を送りだすという方向が出てきたことも事実。
- 日本は殆ど全ての国に対して黒字となっており、これまでの貿易アンバランスをこれ以上続けることは許されない。ゴールを設定するか、市場の拡大をする政策をとるか何らかの措置は必要。
- 流通機構の問題、子会社、系列会社に益の落ちる仕組み等、非関税面のバリエアの解決が必要。
- ④流通業における価格の問題について
- 国内の販売価格が海外の同じ商品の販売価格よりも高いのは、流通の問題だけでなく、メーカーサイドの寡占態勢、総合商社の問題等にも理由がある。
- ディスカウンターが価格破壊の張本人といわれるが、そこには「小売が価格を支配したい」という強い方針がある。メーカー主導の強い業界へ公取の手が伸びようとしている現実もあり、リベートの仕組みの不合理さなど今後改善されよう。
- 流通業における外資系の参入は歓迎すべき点も多い。外資系の企業は明確なコンセプト、例えば「子供のためになる商品しか売らない」ということでコミック類を排除しているおもちや屋とか、「エコロジー」を企業理念に掲げ、環境破壊に繋がるものは売らないという企業もあり、日本企業に良い影響を与えてほしいと思っている。

上智大学経鷲会第5回定期総会報告

報告〔1〕 事業活動報告 (H4・10・1～5・9・30)

1. 講演会 11月7日(土) 於、上智大学10号館講堂
上智大学教授 アルフォンス・デーケン氏
テーマ 「生と死を考える」
2. 懇親会 11月7日(土) 於 上智大学9号館 カフェテリア
出席者総数：約180名
3. 第4回ホーム
カムニング
パーティー H5年5月30日(日)「オールソフィアンの集い」の当日
於 上智会館 第一会議室
出席者総数：約120名
4. 会報の発行 年2回 発行：平成5年4月・10月
発行部数：10,000部(会員、学生他)
5. ゴルフ大会 名称：第3回オールソフィアーズゴルフ大会
日時：H5年8月20日(金)
後援：上智大学体育会OB会、ゴルフ部OB会
場所：高麗川カントリークラブ
人数：40組 148名(男子：137名、女性：11名)
チャリティー：「上智大学ソフィア会UKHCR難民募金」153千円寄贈
6. 役員会等 役員会：12回 開催
委員会：①総務3回②事業企画6回③広報8回④会計4回
⑤ゴルフ実行3回

報告〔2〕 代議員の選出(別紙参照)

議案〔2〕 事業計画(案)(H5・10・1～6・9・30)

1. シンポ 11月6日(土) 於、上智大学10号館講堂
ジウム 出席者総数(目標)500名
司会：上智大学経済学部経済学科長 浜田寿一教授
テーマ：「バブル後の日本経済の見通し——わが業界よりの展望」
パネラー：福田順子、朝山一成、和泉法夫、三木真弘、
D. ハリス、飯柴正美。
2. 懇親会 11月6日(土) 於 上智大学9号館 カフェテリア
出席者総数(目標)500名
3. 第5回ホーム
カムニング
パーティー H6年5月29日(日)「オールソフィアンの集い」の当日
於、上智会館 第一会議室予定
出席者総数(目標)200名
4. 会報の発行 年2回 発行：平成5年3月・9月
発行部数：10,000部(会員、学生他)
5. ゴルフ大会 名称：第4回オールソフィアーズゴルフ大会
日時：H6年8月 予定
場所：高麗川カントリークラブ 予定
人数：40組 160名
6. 役員会等 役員会：月1回 開催予定
委員会：①総務 ②事業企画 ③広報 ④会計(必要な都度)
⑤ゴルフ実行

議案〔4〕 役員選任(別紙参照)

平成6年上智大学経覧会役員名簿

(平成6年3月22日現在)

役名	氏名	役名	氏名	役名	氏名	役名	氏名
会長	伍堂光雄 (32. 経・経)	幹事	秋葉 哲 (42. 経・経)	幹事	三輪一夫 (53. 経・営)	幹事	矢崎 繁 (60. 経・経)
副会長	川野克美 (33. 経・経)	"	毛利三郎 (43. 経・経)	"	森 則明 (53. 経・営)	"	飛田 勤 (61. 経・営)
"	三好 登 (36. 経・経)	"	衛藤幹郎 (43. 経・経)	"	鈴木恵子 (53. 経・営)	"	渡辺一彦 (62. 経・営)
幹事	成川善継 (34. 経・経)	"	前川和博 (44. 経・経)	"	澤田保男 (54. 経・営)	"	斉藤影浩 (63. 経・営)
"	倉橋久輝 (34. 経・経)	"	宇和島友文 (44. 経・経)	"	権田哲也 (55. 経・経)	"	藤野美紀 (H1. 経・営)
"	目谷昌彦 (35. 経・商)	"	田中正美 (45. 経・営)	"	一色英之 (55. 経・経)	"	青木健治 (H1. 経・経)
"	堀井 侃 (36. 経・経)	"	江尻 実 (45. 経・経)	"	手島知一 (55. 経・経)	"	鷹取 朗 (H1. 経・経)
"	印南 進 (37. 経・経)	"	樋口憲雄 (46. 経・経)	"	石井直美 (56. 経・経)	"	和泉祐介 (H2. 経・営)
"	上土居欽一 (37. 経・経)	"	三木真弘 (46. 経・経)	"	今村真二 (56. 経・経)	"	荒井典子 (H3. 経・営)
"	遠藤千朗 (38. 経・経)	"	森田正昭 (47. 経・経)	"	近藤久二子 (57. 経・経)	"	坂下 努 (H3. 経・経)
"	戸川宏一 (38. 経・経)	"	相澤 勉 (48. 経・営)	"	渡辺公子 (57. 経・経)	"	田中祐爾 (H4. 経・経)
"	石川 洌 (39. 経・経)	"	林 幸一 (48. 経・営)	"	土屋 貞 (57. 経・経)	"	下川末美 (H4. 経・営)
"	竹内靖博 (39. 経・経)	"	八木達郎 (49. 経・営)	"	北川 潤 (58. 経・営)	"	石毛洋子 (H5. 経・営)
"	池田賢吾 (40. 経・商)	"	服部 誠 (50. 経・営)	"	尾高雅宣 (59. 経・営)	"	刀禰かおり (H5. 経・経)
"	滝 一郎 (40. 経・経)	"	松田 茂 (50. 経・経)	"	矢部英貴 (59. 経・営)	監事	大滝史博 (38. 経・経)
"	松野秀朗 (41. 経・商)	"	上原隆一 (51. 経・営)	"	渡辺英孝 (59. 経・営)	"	松本正一郎 (53. 経・経)
"	木村靖之 (41. 経・経)	"	熊田宗建 (52. 経・営)	"	新實 孝 (60. 経・経)	代表 顧問	兼光秀郎

会報発行がピンチです

会計委員長 松野筆朗 (41 経・商卒)



経鷲会は発足以来、秋の総会での講演会やシンポジウム、春の「オールソフィアン集い」でのホームカミングパーティーと企画を進め、さらには経済学部OBの枠を破り幅広く上智大学OBにまで参加を呼び掛ける夏のゴルフ大会と活動基盤は着々と固まってきております。反面この活動を支える財政面はかなり厳しい状況に追い込まれてきています。

すでに大半の方はご承知と思いますが会の運営並びに会報誌発行(年2回)の資金は会報収入に頼っております。この会報収入が思うように集まりません。最近のデータでは卒業生総数10,273名の内実際に支払っていただいた方は1,196名とわずか15%。これでは年2回卒業生全員に会の活動を報告することはできません。

会報収入の納入状況を卒業年次別に見てみますと昭和41年以降の集まりが悪いのが特に目立ちます。50年代、60年代、平成となるにつれて支払う方が少なくなっているのは非常に残念なことです。

会の存続・繁栄には若い方々の参加がなくては成り立ちません。是非今のうちに参加していろいろな意見や要望をおっしゃってください。仕事が忙しいのはよく分かりますが年数回は経済学部の同窓会に出席し昔の仲間と話したり同業他社或いは先輩・後輩との情報交換など気のおけない会話をしてみたいかがですか。また遠方でとても参加できないという方は年2回のECONOMYANを楽しみにするためにも会報費支払いで参加のほどお願い致します。

上智大学経鷲会予算(案)

自 平成5年10月1日 至 平成6年9月30日

		前期予算	今期予算	
収入	総会費収入	1,000,000	1,000,000	
	役員会収入	500,000	1,000,000	
	会報収入	4,500,000	2,000,000	
	広告収入	800,000	400,000	
	会報料収入	50,000	50,000	
	その他収入	300,000	400,000	
	日収入計	7,150,000	4,850,000	
	支出	総会費	350,000	350,000
		印刷費	80,000	80,000
		謝礼金	300,000	—
郵送料		20,000	20,000	
アルバイト料		30,000	30,000	
雑費		60,000	60,000	
小計		740,000	540,000	
代議員会・役員会費		会場費	100,000	100,000
郵送料		40,000	40,000	
会議費		300,000	300,000	
小計	440,000	440,000		
会報発行費	印刷費	1,500,000	1,500,000	
	郵送料	1,000,000	1,200,000	
	伝送手数料	200,000	200,000	
	雑費	200,000	200,000	
	小計	2,900,000	3,100,000	
事務局費	アルバイト料	50,000	—	
	交通費	5,000	—	
	消耗品費	100,000	100,000	
	雑費	300,000	350,000	
小計	255,000	250,000		
子猫費	印刷費	200,000	50,000	
	寄附金	4,550,000	4,280,000	
	山一連合計	2,825,000	470,000	
前期超過	2,933,758	5,141,202		
期末残高	5,558,756	5,611,202		

第3回オールソフィアンズゴルフ大会会計報告
1993年8月20日 於:高麗川カントリークラブ

収入	収入	4,874,000	4,874,000
	参加費	3,429,030	3,429,030
	参加費	155,360	155,360
	雑費	688,320	688,320
	役員代	67,840	67,840
	アルバイト代	50,000	50,000
	メンバー志付け	20,000	20,000
	連絡通信費	11,761	11,761
	雑費	29,453	29,453
	不参加者返金	180,000	180,000
合計	4,223,304	4,223,304	
支出	収入-支出)剰余金	250,696	250,696
	経費会一般会計繰り入れ	—	—
合計	4,223,304	4,223,304	

平成5年10月1日 実行委員会 滝田

上智大学経鷲会決算報告書

自 平成4年10月1日 至 平成5年9月30日

		今期予算	今期実績	
収入	総会費収入	1,000,000	585,000	
	役員会収入	500,000	1,052,000	
	会報収入	4,500,000	2,609,000	
	広告収入	800,000	200,000	
	会報料収入	60,000	108,436	
	その他収入	300,000	372,911	
	日収入計	7,160,000	6,027,410	
	支出	総会費	350,000	348,037
		印刷費	80,000	10,118
		謝礼金	200,000	200,000
郵送料		20,000	15,670	
アルバイト料		30,000	24,000	
雑費		60,000	34,892	
小計		740,000	632,517	
代議員会・役員会費		会場費	100,000	59,019
郵送料		40,000	5,175	
会議費		300,000	176,438	
小計	440,000	240,633		
会報発行費	印刷費	1,500,000	1,454,360	
	郵送料	1,000,000	975,030	
	伝送手数料	200,000	148,400	
	雑費	200,000	163,126	
	小計	2,900,000	2,741,956	
事務局費	アルバイト料	50,000	—	
	交通費	5,000	0	
	消耗品費	100,000	51,582	
	雑費	300,000	300,000	
小計	255,000	159,582		
子猫費	印刷費	200,000	30,000	
	寄附金	4,550,000	3,819,964	
	山一連合計	2,825,000	2,207,445	
前期超過	2,933,756	2,933,756		
期末残高	5,558,756	5,141,202		
収入-支出)	剰余金	△ 300,000	△ 300,000	
収入-支出)	剰余金	△ 16,995	△ 16,995	
収入-支出)	剰余金	△ 2,027,074	△ 2,027,074	
収入-支出)	剰余金	△ 6,026,281	△ 6,026,281	

収入-支出)	剰余金	△ 300,000
収入-支出)	剰余金	△ 16,995
収入-支出)	剰余金	△ 2,027,074
収入-支出)	剰余金	△ 6,026,281
収入-支出)	剰余金	△ 300,000
収入-支出)	剰余金	△ 16,995
収入-支出)	剰余金	△ 2,027,074
収入-支出)	剰余金	△ 6,026,281

収入-支出)	剰余金	△ 300,000
収入-支出)	剰余金	△ 16,995
収入-支出)	剰余金	△ 2,027,074
収入-支出)	剰余金	△ 6,026,281

会報発行がピンチです

会計委員長 松野筆朗 (41 経・商卒)



経鷲会は発足以来、秋の総会での講演会やシンポジウム、春の「オールソフィアン集い」でのホームカミングパーティーと企画を進め、さらには経済学部OBの枠を破り幅広く上智大学OBにまで参加を呼び掛ける夏のゴルフ大会と活動基盤は着々と固まってきております。反面この活動を支える財政面はかなり厳しい状況に追い込まれてきています。

すでに大半の方はご承知と思いますが会の運営並びに会報誌発行(年2回)の資金は会報収入に頼っております。この会報収入が思うように集まりません。最近のデータでは卒業生総数10,273名の内実際に支払っていただいた方は1,196名とわずか15%。これでは年2回卒業生全員に会の活動を報告することはできません。

会報収入の納入状況を卒業年次別に見てみますと昭和41年以降の集まりが悪いのが特に目立ちます。50年代、60年代、平成となるにつれて支払う方が少なくなっているのは非常に残念なことです。

会の存続・繁栄には若い方々の参加がなくては成り立ちません。是非今のうちに参加していろいろな意見や要望をおっしゃってください。仕事が忙しいのはよく分かりますが年数回は経済学部の同窓会に出席し昔の仲間と話したり同業他社或いは先輩・後輩との情報交換など気のおけない会話をしてみたいかがですか。また遠方でとても参加できないという方は年2回のECONOMYANを楽しみにするためにも会報費支払いで参加のほどお願い致します。

上智大学経鷲会予算(案)

自 平成5年10月1日 至 平成6年9月30日

		前期予算	今期予算
収入	総会費収入	1,000,000	1,000,000
	賛助会費収入	500,000	1,000,000
	会報収入	4,500,000	2,000,000
	広告収入	800,000	400,000
	受取利息収入	60,000	50,000
	その他収入	300,000	100,000
	注収入計	7,160,000	4,850,000
支出	総会費	350,000	350,000
	印刷費	80,000	80,000
	遊覧会	200,000	—
	郵送料	20,000	20,000
	アルバイト料	30,000	30,000
	雑費	80,000	80,000
	小計	740,000	540,000
	代議員会・役員会費	100,000	100,000
	会場費	40,000	40,000
	郵送料	300,000	300,000
	小計	440,000	440,000
	会報発行費	1,500,000	1,500,000
	印刷費	1,000,000	1,000,000
	郵送料	200,000	200,000
	雑費	300,000	300,000
小計	2,500,000	3,000,000	
事務局費	50,000	—	
交通費	5,000	—	
消耗品費	100,000	100,000	
雑費	100,000	100,000	
小計	255,000	250,000	
子猫費	200,000	50,000	
支支出計	4,535,000	4,380,000	
繰上金計	2,625,000	470,000	
前期繰越	2,933,758	5,141,202	
期末残高	5,558,758	5,611,202	

第3回オールソフィアンズゴルフ大会会計報告
1993年8月20日 持:高瀬川カントリークラブ

		収入	支出
収入	多額寄付	4,674,000	4,674,000
	合計	4,674,000	4,674,000
	プレー費(148人分)	3,429,030	3,429,030
	参加費	166,360	166,360
	施設費用	488,300	488,300
	賞品代	87,840	87,840
	アルバイト代	50,000	50,000
	マネージメント料	20,000	20,000
	連絡部代金	11,761	11,761
	雑費	99,493	99,493
不参加者返金	180,000	180,000	
合計	4,423,304	4,423,304	
(収入-支出)剰余金	250,696	250,696	

平成5年10月6日 発行委員会 池田

上智大学経鷲会決算報告書

自 平成4年10月1日 至 平成5年9月30日

		今期予算	今期実績
収入	総会費収入	1,000,000	685,000
	賛助会費収入	500,000	1,052,000
	会報収入	4,500,000	2,609,000
	広告収入	800,000	200,000
	受取利息収入	60,000	108,436
	その他収入	300,000	372,374
	注収入計	7,160,000	6,027,410
支出	総会費	350,000	348,037
	印刷費	80,000	10,118
	遊覧会	200,000	200,000
	郵送料	20,000	15,670
	アルバイト料	30,000	24,000
	雑費	80,000	34,662
	小計	740,000	652,517
	代議員会・役員会費	100,000	99,019
	会場費	40,000	5,176
	郵送料	300,000	116,828
	小計	440,000	240,833
	会報発行費	1,500,000	1,454,360
	印刷費	1,000,000	976,030
	郵送料	200,000	149,400
	雑費	300,000	163,128
小計	2,900,000	2,741,556	
事務局費	50,000	—	
交通費	5,000	0	
消耗品費	100,000	51,582	
雑費	100,000	162,676	
小計	255,000	214,258	
子猫費	200,000	30,000	
支支出計	4,535,000	3,819,964	
繰上金計	2,625,000	2,207,446	
前期繰越	2,933,758	2,933,758	
期末残高	5,558,758	5,141,202	

		収入	支出
収入	多額寄付	4,674,000	4,674,000
	合計	4,674,000	4,674,000
	プレー費(148人分)	3,429,030	3,429,030
	参加費	166,360	166,360
	施設費用	488,300	488,300
	賞品代	87,840	87,840
	アルバイト代	50,000	50,000
	マネージメント料	20,000	20,000
	連絡部代金	11,761	11,761
	雑費	99,493	99,493
不参加者返金	180,000	180,000	
合計	4,423,304	4,423,304	
(収入-支出)剰余金	250,696	250,696	

平成5年10月6日 発行委員会 池田

事業企画委員会の活動を遂行するにあたって

事業企画委員長 目谷昌彦 (35年 経商卒)



経済学部出身者で組織されている上智大学経鶯会の中にあって、事業企画委員会の役割は、総務・広報・会計がそれぞれの分野で大切な役割を占める大きなものであります。毎年11月上旬に開催される経鶯会総会当日の懇親会企画に始まり、5月の“オールソフィアンの集い”の際に経済学部出身者に呼びかける“ホームカミング”の主催、8月下旬に開催予定される“ゴルフ大会”のゴルフ場選定参加者募集、そして大会運営上の諸手配から開催当日の取り仕切り等々、年間を通じての活動には目まぐるしいものがあります。

母校を卒業して早や34年、サラリーマンであれば定年退職を真剣に考えなくてはならない年代になり、今日まで歩んできた自分が置かれている環境を真面目に省みる時、反省材料は誠に多いものの、商道に励む丸腰の精神を以て常に相手の方を尊重してきた心意気と情熱だけは、誰にも負けない自分だけのもの……と、自負しています。しかしながら、それを受ける側に問題がないかと自問すれば、実のところそこには些かの隔たりがあるような気がします。といいますのは、一般社会での自分の役どころと、ロータリークラブの如き奉仕団体における自分の存在、はたまた菩提寺の総代としての役目等々、歳に応じて体験する出会いと場所において自分の責任を全うする時、その場その場の反応に、奉仕する側と軽く受け流す側との間のギャップを感じるからです。このことは、私ども経鶯会の役員が丸一となって奉仕活動する上においても、一同が等しく実感している問題です。

冒頭申し述べた通り、経鶯会には各委員会があり、そこに何らかの形で所属する役員は、自己の職業との狭間を調整しながら、一生懸命に奉仕しています。昨年まで小生

が所属していた広報委員会を一例に上げれば、たかが広報誌といわれても、発行にこぎつけるまでには、委員の並々ならぬ努力があります。立案・情報収集・インタビュー・原稿作成・原稿校正・印刷所との折衝などの作業もさることながら、先ずはお金のかかることです。予算組みから始まり、予算枠に満たないところは、先輩諸氏の会社を訪問して、義理でも良いから広告を頂戴したりしてまかなっております。ご迷惑をかけて来た事も事実です。しかし、敢えてそのような方法を取らなくてはならない裏には、予算を組むにあたっての歳入欠陥が挙げられます。経済学部出身の諸兄に広報誌を等しく配布することには、普段疎遠である同窓仲間との接点となる重要な意味が含まれているわけです。しかし、受ける側の同窓諸兄の何割かは、この会費すら送って下さいませんでした。このことが、広報誌発行のもう一つの悩みでした。世の中のプラスとマイナス・陽と陰・する側とされる側……等々、噛み合わせの難しさを感じます。

しかし、本年度の小生は事業企画委員会で立案と実行……大変だけど、やります！

通電した電気器具のプラスとマイナスの接点が一致すれば、お互いに役立つもの……そんな願いを込めて、これからの事業に取り組んでいきます。

同窓諸兄の皆様、今こそ仲間意識を発揮して協力してください。上智大学経鶯会会員としてのプライドを感じようではありませんか！ 是非、お願いします。



総務委員会の活動方針

総務委員長 倉橋 久輝
(34年 経経卒)



総務委員会は、経鷺会の運営と活動がスムーズに行われ、会員各位にお役に立ち、皆様に喜んでいただけるよう活動するのが責務と考えています。本年度も昨年同様に総務の責任の大切さを認識し、会の運営、会員の皆様のお役に立つよう務めます。

それには、経鷺会と会員各位の交流が円滑に行われるようにパイプ役に徹すること、次に、理事会と各委員会が一体となって運営されるための潤滑油になること、三つ目に会員同志が、相互に交流し合い、新しい人脈づくりができるチャンスづくりのお手伝い、最後に、現役大学生とOBとの繋がり等があります。

経鷺会では、各学年毎に役員が推薦され選出していました。本年度からは、各学年毎に推薦された役員にプラス、ゼミ単位からも役員を推薦していただき、選出することになりました。役員全員が一致協力して、11月12日(土)に予定されている経鷺会の総会に大勢の会員に参加して戴き成功裡に終わらせたいと思います。会員各位は、人脈づくりのチャンスとしておおいに活用してください。

現役の大学生とOBとの繋がりについては、昨年度大成功した、OBによる講義を今年度も計画しています。OBの講義を通じて、OBとの一体感が生まれることを願い、楽しみにしております。

経鷺会が会員相互の交流の場になり、相互支援の絆を強めたいと願っております。それには、会員各位のご理解、積極的なご支援・ご協力、総会への参加を心より願います。

最後になりましたが会員各位のご多幸とご活躍をお祈り申し上げます。

第4回オールソフィアンゴルフ大会のお知らせ

昨年大好評でしたオールソフィアンズゴルフ大会は、ソフィアンにとって真夏の楽しみな行事として定着しつつあります。前回も早々に締切りとなり、折角のお申込にもかかわらず、かなりの方々をご参加出来ませんでした。今年はぜひお早目のお申込みを！

期 日 平成6年8月24日(水)

午前7時48分第一組スタート

場 所 高麗川カントリークラブ

(埼玉県日高市)

参加資格 卒業生、教職員及びその家族

人数枠 40組160名(会費振込による先着順、申込受付中)

申込先 郵便振替

宛先 「ソフィアンズゴルフコンペの会」

口座番号00170-9-614912

会 費 3万3,000円(プレー代、賞品及びパーティー代)

試合方式 新ベリア方式ストロークプレー

優勝(男女別)、賞品多数用意

主 催 上智大学経鷺会(経済学部同窓会)

後 援 上智大学体育会ゴルフ部OB会

上智大学体育会OB会

その他 各種グループによる参加大歓迎(同期会、各部OB会等)四名単位で申込みいただければ、同一グループでプレー可、交通の便の都合上、スタート時間の希望があれば出来る限り考慮します。

賞品のご提案等でご協賛いただける企業がございましたらご紹介下さい。

問合せ先 オールソフィアンズゴルフ大会実行委員会

秋葉 哲 03-3356-8271(住建不動産)

秋田 茂 03-3262-0913(自宅)

衛藤幹郎 03-5275-3060(マンテックス)

“アジアを語る”

毎年、11月に行われる経覧会の総会の際は、あわせて講演会やシンポジウムが開催されてきたことは皆様ご存じの通りです。今年はこのテーマとして、会長挨拶で述べられておりますように、“アジアの中の日本（仮称）”と決定されました。これを受けて、エコノミアンも本号より“アジアを語る”欄を設け、会員のご意見を掲載しこれをシリーズ化していくことにしました。皆様のご意見を是非ご投稿下さい。特に、アジア諸国の駐在経験者や留学生の全員には格段のご協力を期待しています。

コメ騒動に想う

堀井 侃 (36年経経卒・全農直販㈱商品開発部長)

私がバンコクに最初に赴任したのは、東京オリンピックの年である。当時はタイの汽車は石炭の代わりにチーク材を焚いて走っており、街中はクリークがいたるところつながって、緑の樹木が映えた水面に小舟が浮かんでいる風景はのんびりとしたものだった。以来、東京とバンコクを往復しながら、通算9年間バンコクに滞在した。

その後のバンコクの変貌はタイ経済の発展と共に、目を見張るものがある。とりわけ'87以降。日本をはじめとし、諸外国からタイへの投資の急増が拍車をかけ、実質10%強の経済成長率で'91にはGDPが900億ドルと韓国の3分の1程度の経済規模に達している。しかし、この高成長は港湾、道路や各種のインフラ不足を露呈している。社会問題でもバンコク首都圏への過度の集中からくるタイ農村の貧困の実状が浮彫りにされてきている。忘れかけていたこのことを日本で起きたコメ騒動が再認識させてくれた感がある。昨年 of 冷夏による凶作で国産のコメ不足から、消費者の買い急ぎが端緒で起ったコメパニック現象は周知の通りである。そのため緊急輸入されたコメが日本市場に出廻ったが、タイのコメの評価は散々だった。

そんな折、タイ農村の現実を紹介し、タ



	<p>経覧会主催 「オールソフイアン ホームカミング・パーティー」開催</p>	<p>オール・ソフイアンの集いの当日恒例の楽しいパーティーを次の要領で開催します。</p>	<p>時間 5月29日 午後1時より午後3時まで （バンゴ大会は2時より開始予定） 4号館175教室（1階）</p>	<p>場所 本年は会場が変更になりましたのでご注意ください。場所は1号館の学籍課等のある事務所の前を通り過ぎて奥の方（以前赤絨毯が敷いてあった学長室の奥）です。また3号館からも行くことができます。当日は案内を出しますので案内に従ってお越しください。明るい教室です。アットホームでくつろげる雰囲気です。OBに先生を交え、飲みかつ楽しい語らひ。お子様にはお土産付き。輪投げや、ダーツ等のゲームと豪華賞品の当たる「バンゴ大会」等ご家族は勿論、学内を問わず親しいご友人も多数お誘いください。</p>	<p>その他 「オールソフイアン・ゴルフ大会」の申込受付について 好評のゴルフ大会は今年も次の要領で開催されます。</p>	<p>8月24日（水）埼玉県「高麗川cc」予定組数は40組（計160名）です。例年早い時期に満員となっておりますのでお早めにお申込ください。5月29日も申込を受け付けます。</p>
--	---	---	--	---	---	--

イのコメの誤解をとこうとタイ東北部の農民たちが来日し、東京で報告会が開かれたことが、NHKテレビや日経で報道された。タイも昨年は30年ぶりの大干ばつで、今年も水不足で悩まされていること、また、凶作と日本の大量買付でコメ価格が倍近く急騰、スラム街や農村では満足にコメが食べられず子供の多くが栄養失調になっている事実、スーパーの売り場見学では、タイの10倍の値段に驚き、売れ残ったタイのコメを見て、「われわれは年の半分はコメを食べられない。悲しくなる」と農民たちの声には胸打たれたが、飽食社会に安閑としている日本人の身勝手さを指摘されたようなショックを受けた。エスニックブームでタイ料理は日本の若者に人気となっていながら、日本の消費者にタイのコメが不評となっていることは解せないことである。これはマスコミの喧伝で消費者が食わず嫌いになっているのが最大の原因ではないかと思っている。

世界貿易量が毎年約一千万トンといわれる中で、タイのコメは毎年約6百万トン輸出されている国際的な食糧である。ウルグアイラウンドも調印され、来年から毎年一定量のコメを輸入していかなければならない日本の国際的立場を踏まえると、タイのコメを創意工夫しておいしく食べこなしていくことこそ、日本人の国際人たる務めであると思っている。また、「水中に魚あり、田に稲あり」と自然の恵みを謳ったのはスコタイ王朝第三代ラーマカムヘン大王だが、日本人の胃袋を満たすために、この自然を壊し、タイの農村を疲弊させていくことはあってはならない。それには何よりも国際人として目覚めと節度ある行動が日本人に求められており、タイの自然破壊・農村を守っていくことにも日本は積極的に協力をしていくべきではないだろうか。

“インドネシア”へのエール 赤倉康友（36年経商卒・東陶機器常務取締役）

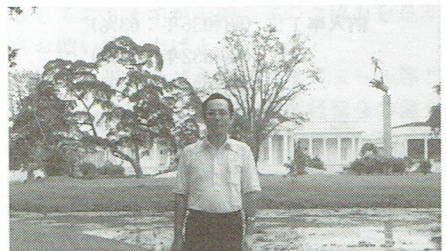
79年10月から約3年間、当社(TOTO)とインドネシアのスルヤグループとの合弁企業である、(株)STI(スルヤTOTOインドネシア)の副社長としてジャカルタに滞在した。

TOTOは建築設備機器の総合メーカーであるが、アジア地域で有力な輸出先であったインドネシア、特に衛生陶器の関税が国策として一挙に高くなった為、急拠現地グループと共同で、衛生陶器の生産会社を設立することにした。合弁企業の設立は77年7月で私が着任したころは工場が完成し、生産が軌道に乗りはじめたころである。TOTOにとってもはじめての海外合弁企業であり、私にとってもはじめての海外勤務で、とまどうことが多かった。

考え方・時間感覚の相違

例えばマーケットでショッピングする際に日本ならば買い手が誰であろうか、商品の価格は同じである。ところがインドネシアでは、同じ商品を財力豊かな人が購入する場合は高くなり、所得の少ない人が購入する場合は安いのが当たり前である。(どちらの考え方にも一理あり)

またインドネシアは雨季・乾季こそあれ、常夏の国である。従って万事ゆったり、おっとりしている。当時ジャカルタに滞在している日本人の間で、インドネシアで仕事をする時の心得として「五つの“あ”がある」といわれた。紹介すると「あせらず」「あわてず」「あてにせず」「あくせくせず」「あきらめず」である。(どちらが正当だといえない。日本の時間感覚が速すぎるともいえる



のかもしれない)

昨年十年振りでジャカルタを訪問した。空港は新設され、表通りは近代化された大都市に変身していた。合弁企業も私が勤務していたころの社員数二百名から三千名となり、インドネシアび株式市場にも上場をはたし、堂々たる大企業に発展していた。これは合弁企業だけの成長の姿ではなく、インドネシアそのものの成長の姿を物語っていると思う。

日本に好意をもち、おだやかな、柔軟な国でありながら、力強く成長する国インドネシアと、いつ迄も共存共栄することを願いながら、その成長・繁栄に心から声援を送りたい。

会報費の納入促進のお願い

経鶯会の機関誌『エコノミアン』の発行費及び経済学部卒業生全員への発送費として、皆様より会報代として、3年分3,000円を徴集させていただいております。現在は、第二期分(平成4年10月より平成7年9月まで)を収集しておりますが全体として、1,203人(約15%)の納入率で、郵送料の値上げも絡み、年2回の発行のピンチに遭遇しております。

幸いにして、他の行事であるホーム・カミング・パーティ(5月29日ソフィアンズ・デイ)、オール・ソフィアンズ・ゴルフ大会(8月24日)、経鶯会総会・講演会・懇親会(11月12日)は、独立採算ベースで運用出来ており、唯一会報発行事業のみ赤字で頭を悩ましております。また、世間では不況が長引いており広告収入の獲得も大変苦勞しており、是非とも皆様方のご理解により会費の納入の促進にご協力いただければ幸甚です。

納入率1位	(昭和36年: 63%)
2	(昭和32年: 33%)
3	(昭和35年: 29%)
3	(昭和38年: 29%)
5	(昭和40年: 26%)

平均納入率

15%

編集後期

* 毎回の理事会で、会報費の徴収状況が頭痛の種、何と言っても当会の唯一の収入源、会運営の浮沈が掛かっているわけだから。経費の切り詰めはもう限界。このままでは会報の発行もあやしくなる。何としても会員各位にこの窮状を理解していただき、ご協力を願いたい。こんな願いが溢れている本号でした。

* こんな中ですが、広報委員会のメンバーは出す以上はより良いものをと、いき盛んです。1月17日にひらかれた第1会の委員会で今年度の編集方針を次ぎのように決めさせていただきました。

- 1) 経鶯会の存在意義を追求する
- 2) 昭和40年代、50年代の会員の関心を高める
- 3) 今年は『アジアと日本経済』を編集テーマとして取り上げる

会員各位のご意見、ご投稿を期待しております。

* 本号をご覧になり、広告が一つもないのにお気付になりましたでしょうか。媒体価値のない物をあたかも価値のあるごとくして諸先輩に甘えていたことを深く反省した結果の現れです。ただし誤解しないでいただきたいのは、甘えることを止めたわけではありません。諸先輩に対してもっと堂々と甘えることにしたいのです。

* 4月12日の理事会で、いつも控え目ながら黙々と仕事を進めてくれるA君が突然、「忙しい中をこうして毎月のように出てくる。会報発送の時は夜遅くまで宛名はりや、封筒詰めに時間をかける。何か会員の方々にお役に立っていると思うことが支えになっていたのですが、総会出席者の減少、会報費の集まり具合をみると、自分の行為は何の意味もなかったのかと空しくなります」の発言あり。出席者一同しばし声なく静まりかえる。